

男女共同参画セミナーを開催しました！

平成30年8月1日（水）に宝泉行政センターにて、区長会を対象に男女共同参画セミナーを開催しました。平成30年度は、太田市の区長・区長代理485名のうち、女性の区長さんは0名、区長代理さんは6名です。来年の改選期に向けて、より多くの女性が地域コミュニティ活動に役員として参画し、さらに地域の活性化を促すとともに、担い手不足の解消も目指して今回のセミナーが開催されました。「地域社会における男女共同参画推進のために」と題し、太田市男女共同参画推進協議会の会長でもあります坂本祐子先生にご講演をいただきました。概要は次の通りです。

「経済活動への参加と機会」「政治への参加」「教育」「健康と生存率」の4分野の計14項目で、男女平等の度合いを指数化した、ジェンダーギャップ指数というものがあります。順位が良いほどギャップが無いという指数ですが、世界144カ国のうち日本は114位（2017年）です。また、都道府県別「市町村の審議会等委員に占める女性の割合」、「自治会長に占める女性の割合」において、群馬県はどちらも最下位。さらに自治会長に占める女性の割合については、全国で唯一の1%未満です。「男性に分類されることによって、社会的資源を持ちやすい」という状況が完全に解消されておらず、社会通念・慣習に問題があるということです。男性率95%のオーケストラ楽団でブラインドオーディションを実施すると、女性の合格率が50%上昇したといった事例が紹介され、私達にはアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）が存在していることがよく理解できました。

地域社会においても、無意識のうちに、「女性にリーダーは荷が重い」「湯茶の準備は女性」など、性別によって役割を固定していないでしょうか。また、災害分野においても、男女のニーズの違いを考慮した対策が必要で、そのためには平常時から男女共同参画の視点を持つことが重要です。男女共同参画がめざす社会は、性別にかかわらず個性とその人なりの能力を十分に発揮できる社会です。それは女性が男性と競い合う事ではなく、男性や女性を否定し中性になることでもありません。「個人差は、性差を超える」です。その人がその人らしく女であったり男であったりすることが尊重され、違いが認められる、みんなが主役のまちを目指しましょう。

終了後に回収したアンケートを見てみると、「自治会長に占める割合が最下位だったことに驚いた、残念に思った」という意見が多くみられました。これまでの慣習を変えることは時間がかかる事ですが、それぞれの地区に持ち帰って、地域全体でもこの問題について考えていただければと思います。

